

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	すばる望遠鏡トモグラフィー補償光学で明かす銀河骨格の確立過程
研究代表者	秋山 正幸 (東北大学・理学研究科・准教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>本研究は、銀河の形成・成長の最盛期であった約100億年前に向かって個々の銀河の恒星分布を観測し、大規模恒星形成機構を解明しようとするものである。形成・成長途上の銀河の恒星分布は、その形成機構及び支配的物理法則を最も直接的に反映するはずである。この目的のためには大望遠鏡による超高解像度撮像が必要であり、これを可能にするべくトモグラフィー補償光学という新技術を用いる。応募者らは、世界で初めてこの技術の実証に成功しており、地上からの天文観測研究に究極の高解像度をもたらす技術として価値が高く、技術が完成すれば波及効果大きい。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>